

子どもの本気を引き出す問題で考える力を高めた

1年「くりあがりのあるたし算」の授業

今回は1年1組の荒井教諭の授業の様子をお伝えします。

1年生の研究授業は、遠足の前日に行われました。そこで、授業で取り組む問題も遠足にちなんだものを工夫しました。

『どんぐりであそびます。やじろべえで3こ、ケーキで9こつかえます。どんぐりは、あわせてなんこいりますか。』

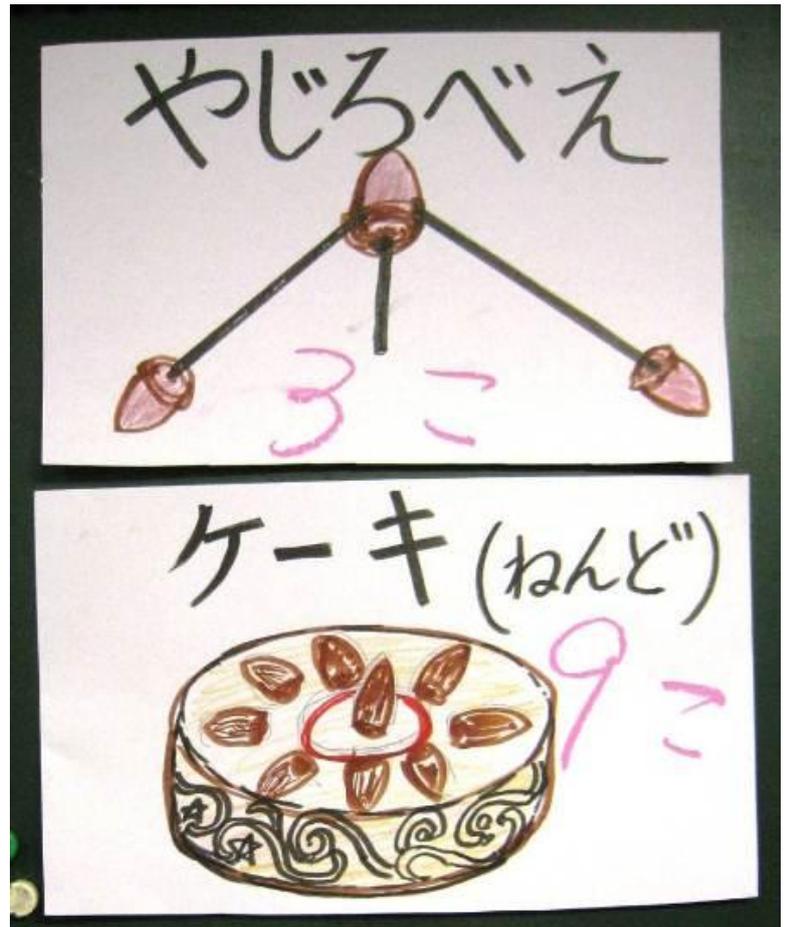
子どもたちの意欲を引き出す問題です。「どんぐりをいくつ拾えばいいんだろう。」子どもたちは真剣に考え始めました。

「 $3 + 9$ 」と式はすぐにできました。けれども、これまでは、くりあがりのないたし算しか学習していません。くり上がりのあるたし算はこの日が初めてです。

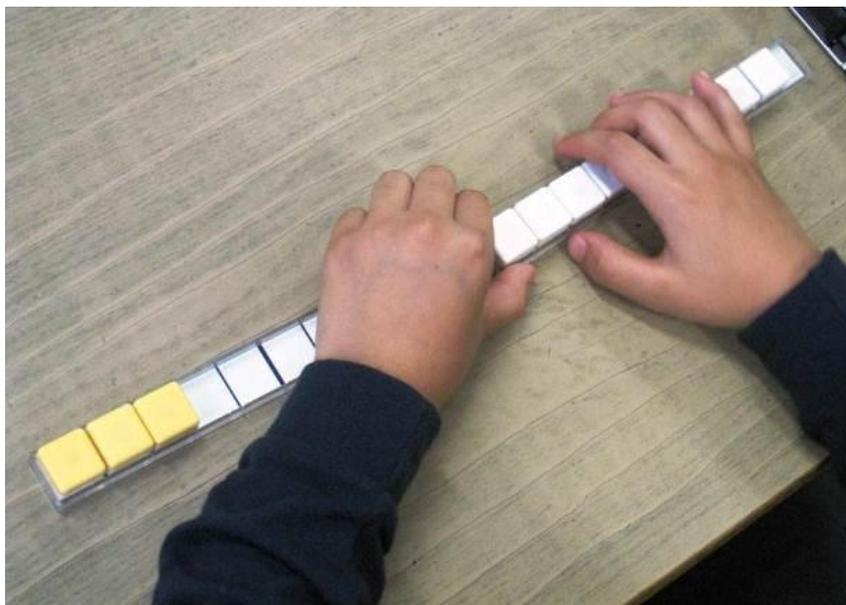
子どもたちはブロックを使って考え始めました。

「どんぐりという具体物」を、いきなり「式という抽象的なもの」に置き換えて計算するのは、1年生にはまだ難しいことです。そこで、まず「ブロックという半具体物」に置き換えて、それを動かしながら考えていくのです。このように細かいステップを踏んでいくことで、どの子も計算の仕方がわかっていきました。

計算のできない子も、3個のブロックと9個のブロックを並べたところで「12個」という答えは見



わかりました。けれども、この日の課題は「計算の仕方を考える」ことです。答えを出すことだけが目的ではありません。ブロックを動かしながら、「 $3 + 9 = 12$ 」の説明の仕方を考えていきました。



自力で考えた後は、隣同士で互いの考えを伝えます。どの子も一生懸命伝え、相手の話を聞こうとしていました。聞くことで思考力が高まり、伝えることで理解が深まります。普段から伝え合う活動を繰り返し行っている1年1組は、説明の上手な子が多くて驚きました。

数人の子が黒板の前で説明をしました。1年生なのに、大きな声で堂々とわかりやすく話していて実に立派でした。

子どもたちは、互いの考えを聞き合いながら、10のまとまりを作ると計算できることに気づいていきました。

クラスの雰囲気もよく、学び合う楽しさを感じる授業でした。これからの成長が楽しみです。

計算力アップの取り組みを始めました

計算力を向上させるために、毎週1回、朝のチャレンジタイムに「めざせ計算マスター」という取り組みを始めました。

学校全体が同じ問題で取り組むことで、計算に対する意識や能力を高めていこうと考えています。

1年生は「たし算」と「ひき算」を集中的に。上の学年にいくほど、「かけ算」「わり算」と挑戦する範囲が広がっていきます。

3分間で何問できるか。毎回記録を書いて残していきます。

「継続は力なり」。向上心をもって、力を高めていってほしいと願っています。

